

感覚教育とは

この時期の子供は、五つの感覚、すなわち、視覚、聴覚、味覚、触覚、そして重量感覚が非常に敏感な時期にあります。

見たり、聞いたり、嗅いだり、味わったり、触れたりしながら、その感覚器官を通して入ってくるものが、同時に抽象化のプロセスを経て内面の豊かさになっていくのです。

そこでモンテッソーリは、五つの感覚の一つ一つを刺激しながら、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の各々が洗練されることを目的として教具を作りました。

色、次元、形、香、音などの基本的性質が順序立てて整えられた教材が、ちょうど、世界基礎となる秩序や性質を習得していかなければならない時期の、子供の敏感さと欲求にこたえます。感覚教育によって培われた敏感さは、後の言語教育、算数教育、文化教育を習得していくうえでの基礎となります。



